

(平成 29 年 10 月試験研究業務月報)

試験研究課題名：ネギえそ条斑病の発生生態解明と防除技術の確立

研 究

ネギえそ条斑病の防除技術の確立を目指して

ネギえそ条斑病は、ネギの葉に黄白色の斑点が生じるため、多発すると商品価値を著しく損ね、出荷量が減少します。その原因は、ネギアザミウマの吸汁により媒介されるウイルスで、主に山城地域で問題となっています。

当センターでは、本病の防除適期を明らかにするため、京都市及び八幡市の定点ほ場を約 1 週間間隔で調査しています。

併せて、府内各地の生産現場における発生状況、採集したネギアザミウマの生態及び殺虫剤の防除効果の調査を行っています。

さらに、所内ではネギの品種の違いによる本病の発生や吸汁被害の程度の比較を、現地では定植前に土壌処理する薬剤の防除試験を行い、防除技術の確立を目指しています。

今後は、来年度に行う現地実証試験に向け、結果の取りまとめを行う予定です。



ネギえそ条斑病・ネギアザミウマの発生状況調査（於：京都市伏見区）